

# FRONTIER INTERNATIONAL GROUP

2026年4月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社フロンティアインターナショナル

東証グロース [ 7050 ]

## エグゼクティブサマリー

- 1 広告業界全体が緩やかな成長基調にある中、販促・イベント領域は大阪万博を契機とする本格的なリアル回帰の傾向が顕著となり、旺盛な需要に支えられて既存事業が大きな伸びを見せました。さらに、当社が推進するM&A戦略が奏功し、グループ各社の業績が上向くと共に、グループシナジーを発揮して新たなクライアント開発が進んだことで、当第2四半期累計の連結売上高は144.7億円（前年同期比 67.3%増）、連結営業利益は11.2億円（前年同期比169.4%増）と大きな成長を実現いたしました。
- 2 業種別分類では、グループをあげて戦略的に推進している世界的ハイブランドのイベント獲得が大きな伸びを見せている他、著名IPや海外ブランド化粧品のパップアップストアの運営や、大手小売のデジタル広告の獲得等により、「スポーツ・ファッション」「小売・家電」が大きな伸びとなりました。
- 3 NPU株式会社は、世界的ハイブランドの世界観を表現したイベントの演出・空間プロデュース等に特化した日本有数のクリエイティブファームであり、これまでも数多くのハイブランドと多様なイベントの実施実績を有しています。この度の同社のグループインによって、当社グループが持つプロジェクトマネジメント能力、多角的なソリューションと、同社が持つラグジュアリー領域における圧倒的なクリエイティビティとブランド理解力が戦略的に融合することで、ラグジュアリー領域における当社グループのプレゼンスを今後一層高めてまいります。



# CONTENTS

**01** | 2026年4月期業績

**02** | 2026年4月期通期業績予想

**03** | APPENDIX

# 01 | 2026年4月期業績

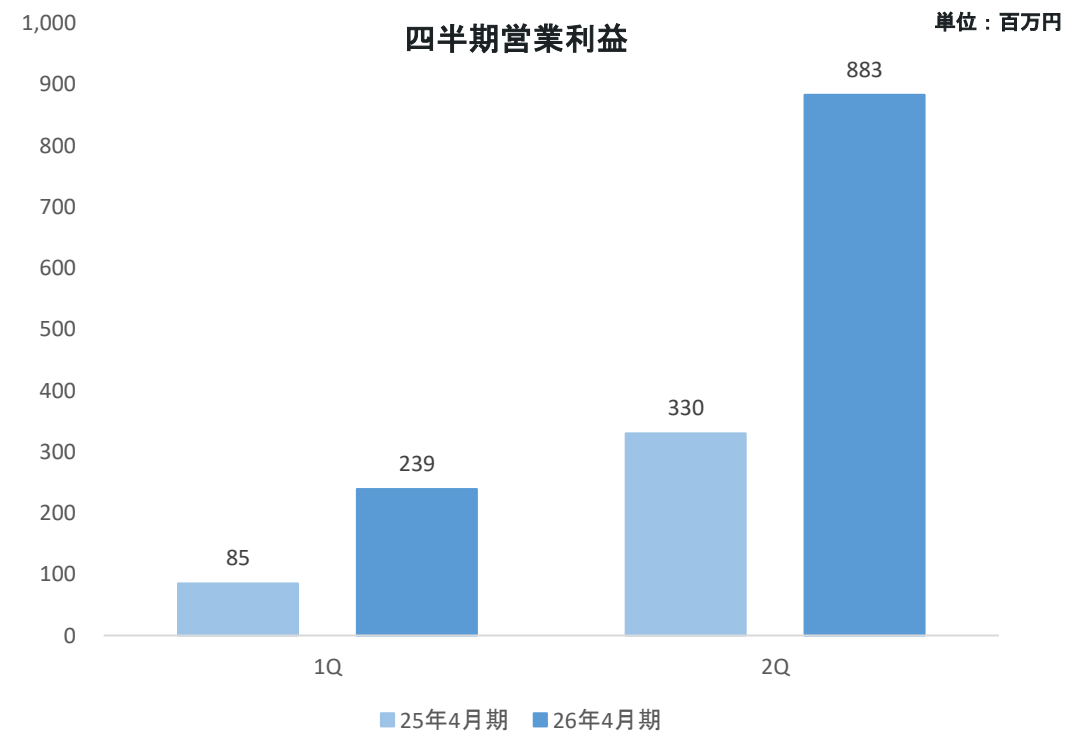
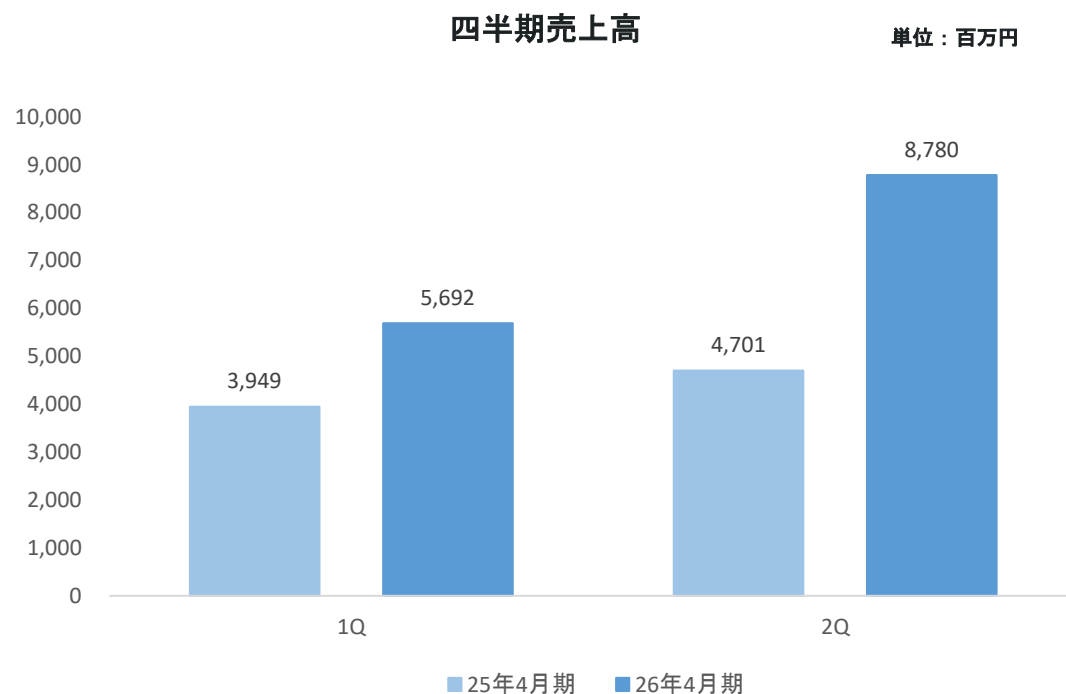
## 2026年4月期 第2四半期累計業績

- 売上高は144.7億円で前年同期比で67.3%増加、各段階損益も全て前年同期実績を大幅に上回り、特に経常利益は11.3億円と前年同期比で177.4%増加と大きな伸びを実現
- オーガニック3社（株）フロンティアインターナショナル、（株）フロンティアダイレクト、（株）イリアル）及び各グループ会社共に業績好調で固定費（販管費）の回収が進んだことから、第2四半期期累計の営業利益率も前年同期の4.8%から7.8%まで大きく改善

	実績		前年同期比
	2025年4月期 累計	2026年4月期 累計	
売上高	8,650	14,473	67.3%
売上総利益	1,619	2,734	68.8%
(利益率)	18.7%	18.9%	
販管費	1,203	1,611	34.0%
営業利益	416	1,123	169.4%
(利益率)	4.8%	7.8%	
経常利益	408	1,133	177.4%
(利益率)	4.7%	7.8%	
当期純利益	327	727	121.9%
非支配株主に帰属する純利益	—	139	—
親会社株主に帰属する純利益	327	587	79.4%

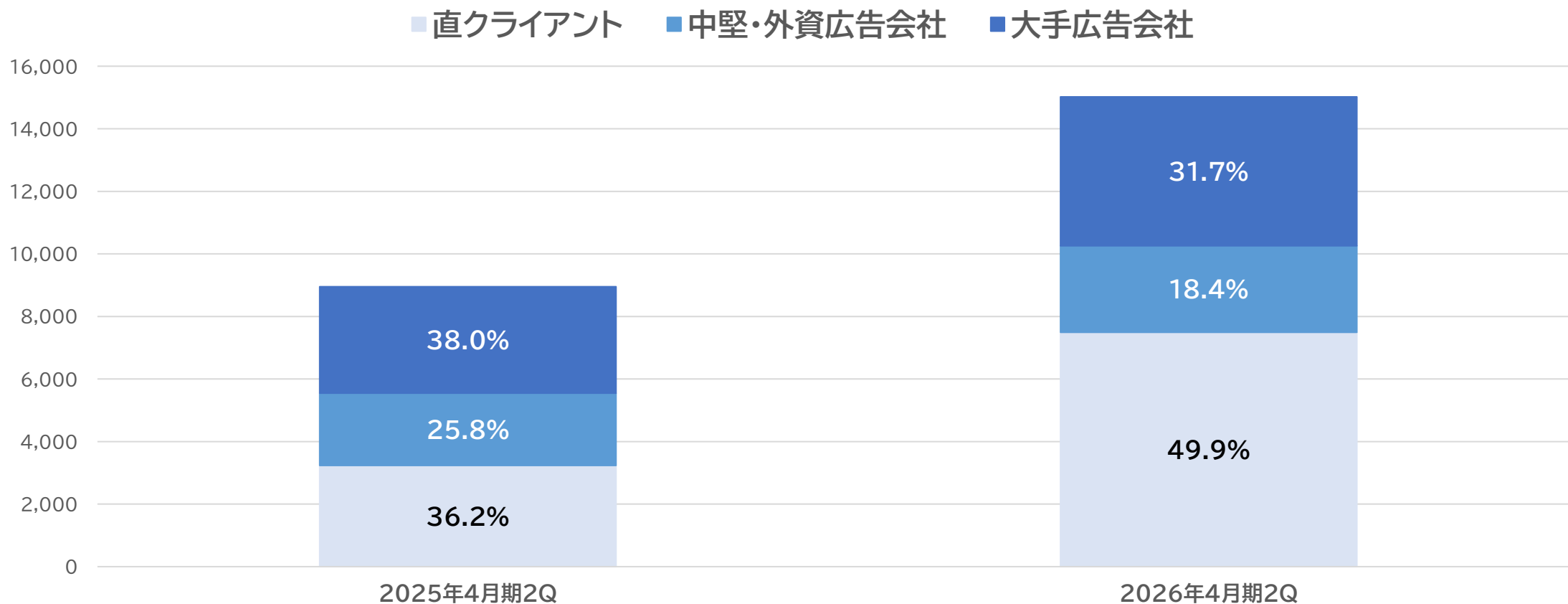
## 四半期業績比較

- 2026年4月期の第2四半期の売上高及び営業利益は、例年通り同第1四半期の実績よりも大きく伸ばしているだけでなく、前年の第2四半期の水準をも大幅に凌駕して着地
- 採算性の改善も進んだことから、第2四半期単体では営業利益率も10%超にまで上昇



## 受注先別売上占有率

- オーガニック3社（株）フロンティアインターナショナル、（株）フロンティアダイレクト、（株）イリアル）において新規クライアント開発が進んだこと、及び従前より直クライアントを得意先とする連結子会社を中心にクライアント開拓が進展したことで、グループ全体での直クライアント比率は、当社グループが目標とする50%の水準にまでほぼ到達



## 業種別売上占有率

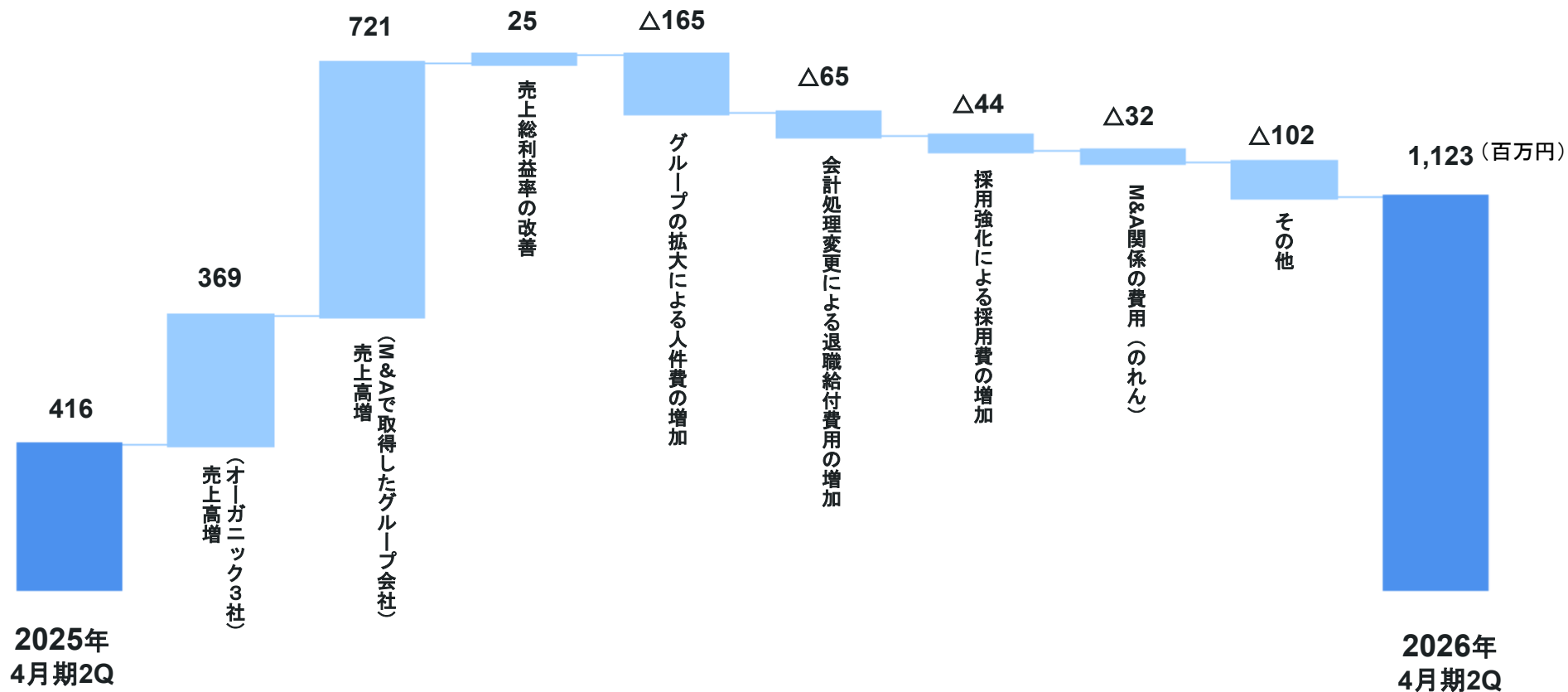
- 前期スポット案件があった「交通・レジャー」、「金融・保険」等で減少となったものの、多くの業種で前年同期実績を超過。特に、「スポーツ・ファッション」では世界的ハイブランドのイベントが大きく伸長、「その他」では著名IPのポップアップストアの運営、「小売・家電」では大手小売のデジタル広告等の獲得により大きく伸長

(百万円)	2025. 4 期2Q		2026. 4 期2Q		増減額	増減率
スポーツ・ファッション	386	4.3%	2,809	19.4%	2,424	628.3%
情報・通信	1,474	16.3%	1,744	12.0%	270	18.31%
食品	1,540	17.0%	1,671	11.5%	131	8.5%
その他	443	4.9%	1,288	8.9%	844	189.9%
嗜好品・化粧品	636	7.0%	1,271	8.8%	635	99.8%
その他団体	643	7.1%	1,157	8.0%	514	80.0%
官公庁・団体	877	9.7%	1,075	7.4%	197	22.5%
小売・家電	731	8.1%	988	6.8%	257	35.1%
不動産・住宅設備	413	4.6%	619	4.3%	207	50.1%
ゲーム	639	7.1%	546	3.8%	△93	△14.5%
交通・レジャー	638	7.0%	524	3.6%	△114	△17.8%
自動車・関連品	195	2.2%	335	2.3%	140	71.7%
金融・保険	326	3.6%	250	1.7%	△76	△23.4%
薬品・医療用品	109	1.2%	196	1.4%	87	79.8%
総計	8,650	100.0%	14,474	100.0%	5,823	67.3%



## 営業利益の増減分析

- 人的資本への戦略的投資や会計処理の変更（退職給付会計）等により販管費は増加したものの、オーガニック3社（株）フロンティアインターナショナル、（株）フロンティアダイレクト、（株）イリアル）及びM&Aで取得したグループ会社の業績が大きく伸長した結果、大幅な増益を実現



## 連結貸借対照表

(百万円)	2025年4月期	2026年4月期 10月末	前期末比
流動資産	11,861	<b>13,666</b>	1,805
現預金	7,499	<b>7,687</b>	188
固定資産	2,620	<b>3,146</b>	526
負債	5,453	<b>7,267</b>	1,814
純資産	9,028	<b>9,545</b>	517
自己資本比率	61.3%	<b>54.0%</b>	△7.3%
総資産	14,482	<b>16,813</b>	2,331

- 流動資産は現預金1.8億円、営業債権5.3億円増加し136.6億円
- 固定資産はNPU（株）の連結子会社化に伴いのれんが3.2億円増加し、31.4億円
- 負債は営業債務9.8億円、賞与引当金が1.2億円増加し、72.6億円
- 総資産は前期末比23.3億円増加し、168.1億円

## 連結キャッシュフロー計算書

(百万円)	2025年4月期	2026年4月期 10月末	前期末比
営業CF	1,673	<b>490</b>	△1,183
投資CF	△445	<b>87</b>	532
財務CF	△293	<b>△476</b>	△183
配当支出	△173	<b>△439</b>	△266
現金・現金同等物 増減額	929	<b>101</b>	△828
期末残高	6,113	<b>6,215</b>	102
FCF	1.227	<b>577</b>	△650

- 営業CFは、前期末比11.8億円の減少
- 投資CFは、前期末比5.3億円の増加
- 財務CFは、配当金の支払額の減少により、前期末比1.8億円減少
- FCFは、▲6.5億円となったものの、前期末比1.0億円の増加
- 種々のM&Aを実行しながらも現金・現金同等物の期末残高は60億円の水準を維持しており、今後の成長に向けた更なる投資余力を確保

## 事例紹介

## ■ 渋谷盆踊り2025



## ■ 大阪・関西万博 EXPO THANKS DAY



## ■ みなと区民まつり



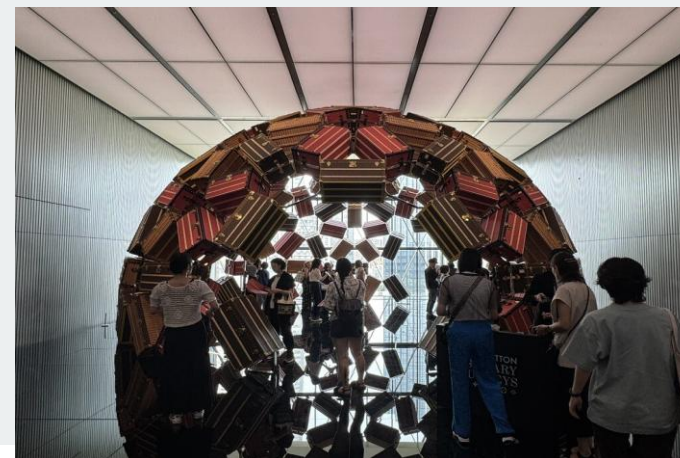
## ■ BROOKSポップアップストア



## ■ こども未来会議 future summit



## ■ ハイブランドの大規模展示イベント



02

## 2026年4月期通期業績予想



## 2026年4月期通期業績見通し

- 2026年4月期は、既存事業と M&A により取得した連結子会社が共に好調に推移しており、この傾向は第3四半期も継続することが見込まれることから、これらの業績動向をふまえ、2026年4月期の通期連結業績予想を下記のとおり上方修正  
なお、NPU(株)ののれんの金額は、当中間連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります

	2025年4月期 通期実績	2026年4月期 前回業績予想 (A)	2026年4月期 今回業績予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (B-A)
売上高	20,335	23,000	28,500	5,500	23.9%
営業利益	1,277	1,550	1,800	250	16.1%
経常利益	1,267	1,574	1,820	246	15.6%
当期純利益	876	1,007	1,110	103	10.2%

## 受注・引合い残高

- 受注数・引合い数は増加傾向にあり、確度の高い案件の獲得も増加。「LOWの合計」は前年度比較でマイナスとなるものの、「受注残高」は前年度比較で大幅な増加となっており、パイプラインの確度が向上

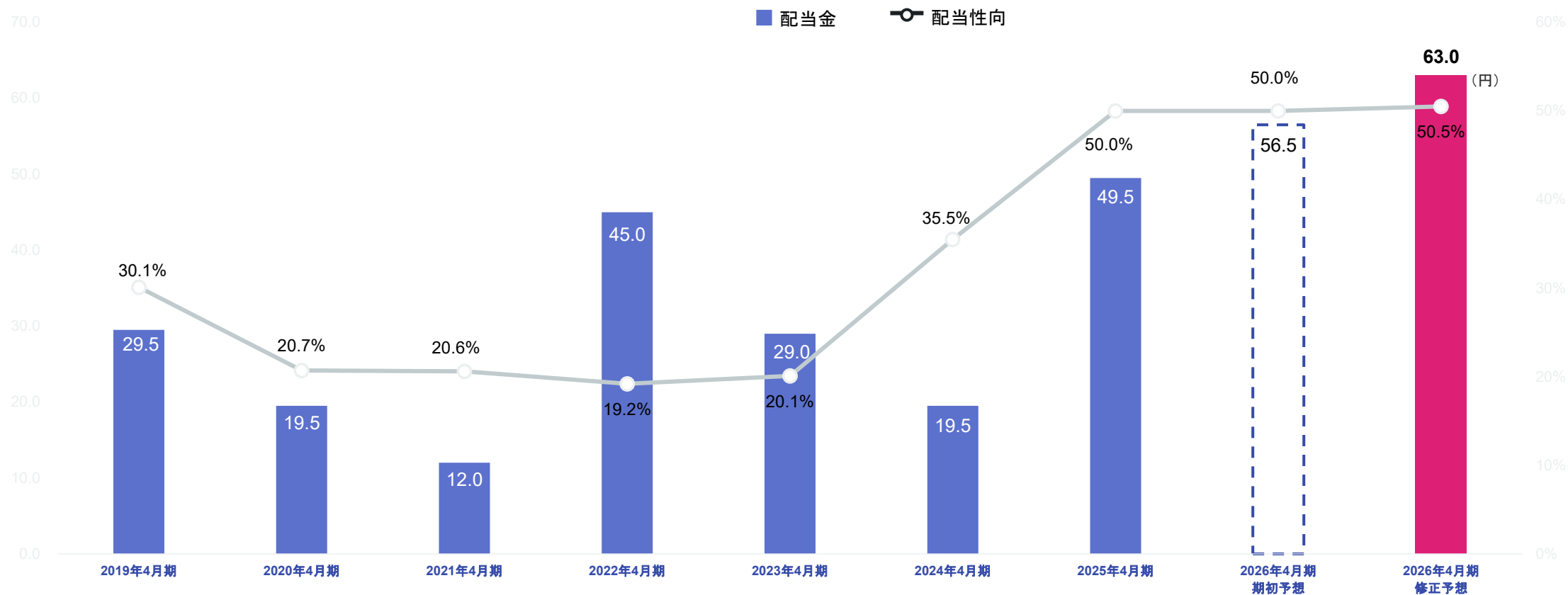
	2025年4月期	2026年4月期	
売上高(百万円)	(202410/31現在)	(2025/10/31現在)	差異
受注残高 (受注+High+Midの合計)	6,640	9,008	2,368
Lowの合計	3,064	2,346	△718

※オーガニック3社（株）フロンティアインターナショナル、（株）フロンティアダイレクト、（株）イリアル）の集計

- 受注：金額、実施時期が決定している案件
- High：金額・実施時期に不確定要素のある案件(80%以上の確度)
- Mid：企画・提案案件のうち、受注する確度の高い案件(50%以上の確度)
- Low：企画・提案中の案件

## 配当予想（修正）

- 当社グループは、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題と認識しており、その見通しに応じた適切な利益還元策を柔軟に検討して実施することを利益還元策の基本方針としている。配当方針は「大型M&Aが発生しない場合には配当性向(連結)50.0%程度を目安」としており、2025年12月15日付けで開示した通期連結業績予想の修正に伴って当期期末の配当予想を増配へ修正



※過去の実績及び今回予想は、2026年2月1日効力発生日とする株式分割の実施後の割合で参考記載



# 03

## APPENDIX

- Purpose、会社概要・沿革

—— 私たちの未来

# OUR FUTURE

心の豊かさを分かち合える  
生きる喜びに満ちた世界の実現。

私たちが創る体験によって、世界を喜びと感動で満たし、

幸福の総量が増えていくことが私たちの願いです。

閉塞感がある現代において、物質的・機能的な充足だけではなく、

精神的な充足や心が豊かであること、そして人生を前向きに進めていく生きることの

喜びに溢れることが重要だと考えています。

—— 私たちの使命

# OUR MISSION

未体験を開拓し、  
すべての人の経験にする。

私たちが目指すものは、人の生きがいを創造し、人生を意義あるものとし、

すべての人の人生に貢献していくことです。そのために私たちがすべきことは、

自分自身・顧客・世の中に未知の体験を創り続けることにより、

人の心を動かし、それを人の経験にし、人々の価値観を変え、行動を変え、

やがて社会がより良い方向に大きく変えていくことです。

# 会社概要・沿革

社名	株式会社フロンティアインターナショナル
事業内容	エクスペリエンスソリューション事業 ヒューマンソリューション事業 デジタル・テクノロジーソリューション事業
代表取締役	河村 康宏
設立	1990年6月
資本金	429,766千円(資本準備金含む)
所在地	東京都渋谷区渋谷3-3-5 NBF 渋谷イースト
主要拠点(国内)	札幌、仙台、東京、千葉 名古屋、大阪、広島、小倉、福岡
正社員数(連結)	464人(2025年4月末現在)
人材登録(連結)	約42,000名
グループ会社	株式会社フロンティアダイレクト 株式会社イリアル 株式会社ガイアコミュニケーションズ 株式会社シネブリッジ 株式会社マックスプロデュース NPU株式会社 他、非連結子会社4社

1990

創業

2001

2005

2008

2009

2010

2013

2018

2019

6月  
イベントキャンペーンの企画、制作、  
運営を目的として東京都港区六本木  
に当社設立

7月  
現在地(東京都渋谷区渋谷)に、  
本社移転

11月  
名古屋オフィスを新設

2月  
大阪オフィスを新設

5月  
福岡オフィスを新設

8月  
中国に划劳通文化艺术咨询(上海)  
有限公司を設立

4月  
店頭販売支援事業に特化した  
セルコム株式会社を設立

5月  
インドネシアにPT.FRONTIER  
INTERNATIONAL INDONESIAを設立

2月  
札幌オフィスを新設

5月  
株式会社フロンティアインターナショナル  
の店頭販売支援事業を2018年5月1日付け  
で分社化し新会社「株式会社フロンティア  
ダイレクト」を設立

2月  
東証マザーズ 上場

2021

6月  
仙台、千葉、金沢、広島、小倉、熊本、静岡に  
サテライトオフィスを outlet

9月  
株式会社ワールドパークへ出資

11月  
体験創造研究所を設立

2022

2月  
ANOBKA3号有限責任事業組合へ出資

4月  
名古屋オフィスを愛知県名古屋市中村区に移転

4月  
東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京  
証券取引所マザーズからグロース市場に移行

9月  
株式会社トリニティ設立

5月  
株式会社イリアル設立

12月  
株式会社シックスティーパーセントへ出資

1月  
株式会社ガイアコミュニケーションズ 子会社化

2月  
YADOKARI株式会社へ出資

8月  
株式会社GROWTH VERSEへ出資

9月  
株式会社シネブリッジ 子会社化  
フォッグ株式会社へ出資  
株式会社マックスプロデュース 子会社化

2025

4月  
株式会社ヴァンクラフト 子会社化  
株式会社KT Partnersへ関連会社化

9月  
NPU株式会社 子会社化



お問い合わせ先



[info@frontier-i.co.jp](mailto:info@frontier-i.co.jp)

## ● 本資料に関する注意事項

- ・ 本資料は、情報提供のみを目的として作成しています。有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。
- ・ 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予想とは大きく異なる可能性があります。
- ・ これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社グループが事業展開する業界の動向等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- ・ また、当社グループ以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。